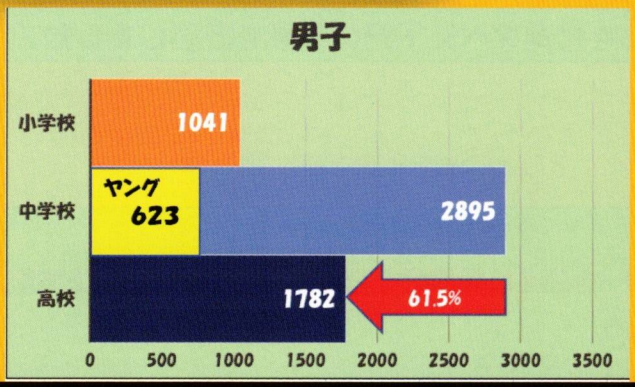
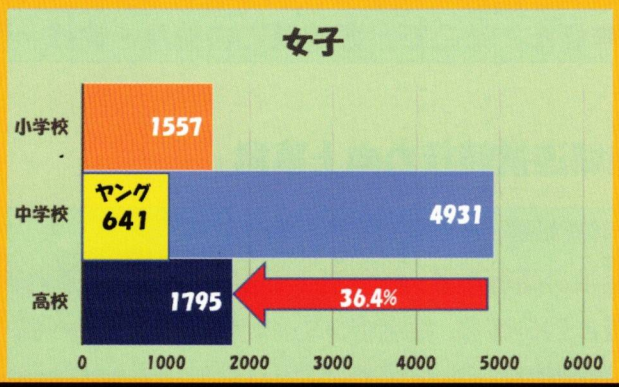
静岡県バレーボール協会　強化普及委員会では

「チームのレベルアップ」と共に、「選手のキャリアを通じた成長」

を応援します。





上のグラフは令和４年度のバレー競技人口です。バレーボールは中学→高校の継続率が低い（特に女子）事が問題になっているとはいえ、中学校部活動外部化後、中学校年代での競技人口の推移がどのようになっていくのか、注視が必要です。

静岡県バレーボール協会強化普及委員会では、普及→発掘→育成→強化の流れで強化普及事業を進めています。育成年代でのバーンアウトやスポーツ障害、勝利至上主義で、バレーボールを離れたり、二の足を踏んでしまう選手を一人でも減らすことは喫緊の課題でもあります。

SVA のすべてのカテゴリーの指導者は

1. 育成年代での勝利を目指すことはもちろん大切ですが、極端な勝利至上主義により、選手の「キャリアを通じた成長」が妨げられることのないように配慮します。
2. 各専門部のガイドラインに定められた「活動時間を遵守」し、選手にとってもコーチにとっても「社会に認められる」持続可能な活動となるように留意します。
3. 主体的に考え、行動し、成長出来る「アスリート」育成の為に、指導者も常に学ぶ姿勢を持ち「アスリートセンタードコーチング」を行います。
4. すべての選手が、技術の優劣に囚われず「（自分の）なれる最高の自分になれるよう」バレーボールを通じて自己実現を計ることが出来る環境を整えます。
5. 自チームの強化のみならず、「（複数チームで）協働・（指導者で情報を）共有・（他カテゴリーとも）協力」してバレーボールの輪を拡げていきます。（公益性）
6. 指導の現場から体罰・暴言※などの一切のハラスメントを排除し、バーンアウトやスポーツ障害、行き過ぎた指導によってバレーボールを諦めたり、二の足を踏んでしまう選手を無くします。

※１．指導者の選手に対する暴言
(1) 人格、人権、存在を否定する言葉（ 例－クズ、邪魔、出ていけ、帰れ、死ね、 てめえ、この野郎、貴様 ）
(2) 自尊心を傷つける、能力を否定する言葉（ 例－役立たず、下手くそ、アホ、バカ ）
(3) 身体的特徴をけなす言葉（ 例－チビ、デブ ）
(4) 恐怖感を与える言葉（ 例－殴るぞ、しばくぞ、ぶっとばすぞ、帰りたいの？、試合に出たくないの？）
２．指導者の暴力的（攻撃的・虐待的含む）振る舞い（行動・行為）
(1) 殴る・蹴るなどを連想させる行為
(2) プレーヤーと近接（顔の目の前、腕一本分より近い距離）して高圧的威圧的に指導する行為
(3) 「おい！」「こら！」と大声でプレーヤーを高圧的威嚇的に指導する行為
(4) 継続的、かつ、度を超えた大声でプレーヤーを指導する行為、いわゆる怒鳴りつける行為
(5) 物に当たる、投げる、床を蹴るなどの行為